

2009.1.12  
154

編集 樋口 みな子

E-mail  
minginga@agate.  
plala.or.jp  
郵便振替  
「銀河通信」  
02740 - 7 - 56535  
(6号分1,000円)



## 寒中お見舞い申し上げます

家族そろって元気に新年を迎えることができました。

昨年は暗いニュースが多かった一年でしたが、今年は誰もが安心して暮らせる社会であって欲しいと願っています。いつも銀河通信で年賀の挨拶としていますので、読者からいつまでも届かないので心配している声も頂きました。所属する山岳会の会報の編集もあって、銀河通信になかなか取り掛かれませんでした。待っていて下さる読者がいるというのはありがたいですね。

新年の新聞記事にアナウンサーの山根基世さんが「自分ならではの志を持って」と語っていました。「自分が何をしたいのかをきちんと見つめて、自分の言葉、志を持っていれば、それが必ず支えになってくれる。うるたえたときは足元を整理する。毎日をしていねいに生きること明日への勇気も出てくる」と。私もきれいになった机の前でパソコンを打っています。

昨年の年末から近くに住む86歳の父の足腰が弱り、母も病院通いがあつたりして、私が時々様子を見に行っています。先日は近所ですが、人を訪ねようと出かけた父が迷子になり通りかかった人に手を引かれているところを私が発見。なんとか自宅に帰って来れましたが、冬の寒空に行き倒れになったらどうしようと不安になりました。今まで元気だったのに老いは少しずつ進んでいるようです。83歳の母が介護するのも大変になってきていますが、今のところ、ヘルパーさんの力を借りずに頑張っています。時間のあるときに買い物の手伝いは我が家の息子がしています。



09.1.3 朝里天狗岳の頂上で



1.9 氷点下12度の野幌の朝

ほんの少しですが贅肉を落としたり膝が楽になりました。老父も心配ですが、無理をしない程度に昨年よりレベルアップした山登りを楽しみたいと思っています。

銀河通信が7月には21年になります。拙文ですが自分の言葉で伝えられるよう努力したいと思います。

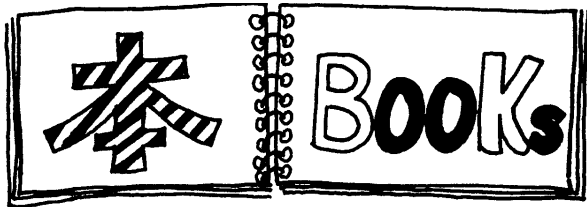


1.3 天狗岳で樹氷の花が見事！

今年もご愛読頂けますようお願い致します。パソコンでも読めます。

<http://briefcase.yahoo.co.jp/bc/ginganews150>

6号分1000円は印刷費と送料です。郵送不要な方はお知らせ下さい。



## 「アフリカのひと」 父の肖像

ル・クレジオ著 菅野昭正・訳 集英社  
1800円+税



医師として、植民地アフリカに人生をささげた父の姿を真正面から描き、自らの原点を語る回想録です。

ル・クレジオは昨年、ノーベル文学賞を受賞しました。アイヌの口承文芸にも深い関心を寄せる著者を知って見たいと読んだのが本書です。

著者は英国人を父に、フランス人を母に南仏のニースに生まれます。フランスで母と兄と祖母とで暮らしていた子供時代。8歳の時に父の住むアフリカに行きます。その時の印象をこう語ります。「はじめてアフリカに着いたとき、私が受け取ったものはすべて覚えている。まことに強烈な自由、それで私の心が熱くなり、酔いしれたほど、私が苦痛なまでにその喜びを享受したほど強烈な自由」。

サバンナを走りまわる日々、すさまじい白蟻の群れなど、アフリカの広漠たる大地と底知れない自然の描写が鮮やかです。そんな少年の記憶と重ねながら、父のアフリカでの医師としての苦悩を押し量ります。理想を求めてアフリカに就いた父は戦争によって厳しい現実と直面するのはです。パンソで、バメンダでカメルーンの山中で、父はアフリカ人たちの魅力と温良さのもとにあったのに、オゴジャでは部族間の戦争、復しゅう、村落間の暴力による清算行為で混乱がありました。、植民地行政の不可欠な一環として医療の責任を負わされた医師が突き当たる矛盾と幻滅、癒しがたい徒労感に著者は思いを馳せます。引退してフランスの家族のもとに帰ってきた父はアフリカでの習慣や家族と孤立する暴力まで持ち込みます。

ビアフラ戦争の凄惨な飢餓状況なども語られ、単なる回想録ではなく、アフリカの歴史と複雑な問題を明晰に見通そうとする姿勢に共感しました。後にモーリシャス島で生まれた父は、イギリス国籍を剥奪されています。植民地行政の尊大さに幻滅を感じていく父の肖像が、感情に流されることなく描かれています。

アフリカの戦争の歴史を知るなら、父の頑なさも理解できるような気がしました。アフリカに新しい文化を生み出そうと努力した先駆者としての父の姿をもル・クレジオは見ているのです。アフリカで懸命に生きた父の肖像は決して暗くはありません。

ル・クレジオの書いた本をもっと読んでみたいと思いました。

## 「旅する力」 深夜特急ノート

沢木耕太郎 新潮社 1600円+税

「旅」という言葉には夢があります。パソコンの前で通信の編集をしている時などふっと小さな旅をしたいなと思うことがあります。

バックパッカーのバイブルと呼ばれる「深夜特急」シリーズ。それらの本は1冊も読んでいませんがテレビ番組で大沢たかおの「深夜特急」は時々見てましたので、どんな旅をしてきたのかは知っていたように思っていました。旅や冒険の本は好きで数多

く読んできました。一緒に旅している気分になりますね。

本書は、旅に出るまでの経緯、沢木耕太郎がノンフィクション作家としてひとり立ちするまでの秘話や旅に関する文章の集大成です。

深夜特急のタイトルは、映画「ミッドナイト・エクスプレス」からつけたエピソードが語られます。この映画から、異国を歩くということは、自分の育った国の法律や論理や常識がまったく通用しない不条理な世界だと気がついたと書きます。

若いときの旅は予期しないことに出会い、それを乗り越えていくことで動揺せずに自分の力を出せるようになる。旅行は「旅する力」が磨かれるものであり、「生きる力」が磨かれるもの。旅は目的地に行くことではなく、行く過程で何を感じられるかが重要。旅は自分の小ささを教えてくれます。旅はもうひとつの学校。教室は世界そのものであるという学校。印象に残った言葉です。

若いときに海外に行ける人は幸せです。私も昨年ネパールに行って、見るもの、聞くもの全て日本と違い新鮮でした。貧しい暮らしの中でも、大地に足をつけて逞しく生きる姿に圧倒されました。もちろん、若い感性でみる海外を否定はしませんが、その国の歴史を学んでから行く中高年の旅もいいなあと思います。

平野甲賀の装丁がモダンです。





## 「明日への伝言」戦火を生き抜いた31人の証言

北海道高齢者等9条の会・札幌北区年輪9条の会編

問い合わせ 今野平支郎さん(011-765-7775)

戦争を実感として受け止められなくなっていたり、憲法を改悪して、再び戦争への道を歩もうとする動きがあります。

戦争とは何か。国民がどれほど犠牲を強いられたか「明日への伝言」はその実態を31人が語ります。

1部は戦場とシベリア抑留の体験記録を 2部は銃後に生きた後方の人々の記録。3部は本土への空襲と戦災の概要、 4部は街頭で伝えた戦争の記憶から成っています。

90歳の大竹三郎さんはシベリア抑留の実相の中で、奉天から42日間の旅をしてカザフ共和国のカラガンダ炭鉱に降り立った時の寒々とした光景と、終戦から3年間も強制労働の日々に明け暮れたみじめさをつづっています。73歳の村上典子さんはキリタツ空襲の恐怖を語ります。私は道内にも空襲があったことを初めて知りました。みな70歳を超えた方たちばかりですが、記憶の鮮明さにどれほど戦争がむごたらしく悲惨であるかが伝わってきます。あたりまえのように思ってきた平和が、憲法9条で守られてきた重みを感じました。



## 映画



### 「シロタ家の20世紀」 藤原智子監督

第2次大戦中のヨーロッパでユダヤ人のシロタ家がたどった運命を描いたドキュメンタリー映画です。

監督は「ベアテの贈りもの」の藤原智子さん。この映画をパリで上映したとき、アリーヌ・カラッツさんが監督を訪ねてきたのが縁で出来た映画です。ベアテさんのいとこの娘でアウシュビッツで生

命を奪われたピエール・シロタの孫娘でした。アリーヌさんは亡母からシロタ家の話を聞き、写真などの資料を集めていました。シロタ一族の物語は20世紀の縮図をみるようだったと監督は語っています。その縁で映画化を実現しました。

日本国憲法の草案づくりに携わったベアテ・シロタ・ゴードンさん。ベアテさんの父、レオ・シロタさんは世界的なピアニストとして活躍。日本にも17年間滞在し、園田高弘氏をはじめとする多数の優れた音楽家を育てました。レオさんの兄弟も音楽界で活躍していましたが、戦争の波に巻き込まれ苦難の人生を強いられます。ベアテさんの叔父ヴィクトルさんは政治犯として消息を絶ち、叔父のピエールさんはアウシュビッツに送られます。まさにシロタ一族の運命は、戦争と迫害の20世紀の縮図でした。

シロタ家は「世界市民」にふさわしいと池内紀さんはパンフレットに書いています。「戦争の悲惨さを学んで、いつまでも平和な未来が続くように努力して欲しい」と発言を続けるベアテさんに勇気づけられました。

レオ・シロタさんのショパンのピアノ曲が美しい。また哀切な合唱パルチザン歌「今日は君に会えない」は祖国のために闘うパルチザン兵士に捧げられた曲が胸にしみました。

## 雑感

大企業が派遣社員を突然解雇のニュースが連日報道されています。仕事を失い、住まいまで無く途方にくれているたくさんの人たちに胸が痛みました。経営が苦しいといっても今まで何兆円もの儲けは蓄えているではありませんか？理不尽な解雇には納得が行きません。

知恵とアイデアでこの不況を乗り切ろうと頑張っている中小企業もあり、そんな企業の製品なら買ってみようという気持ちになります。北海道にも素敵な菓子メーカーがあります。以前から安くて美味しいので買い求めていましたが、その美味しさの秘密がわかりました。帯広に本社がある六花亭の社長の小田豊さんがある新年号の対談で語っていました。働く人たちを何より大切にしているそうです。職員を採用するときには、その人の持ち味を大事にしたいと適性をきちんと見ると言います。工場働いている若者は対人関係をつくるのが苦手という人が多いが、懸命にいいお菓子を作ろうと頑張っていると言います。不況の波で生産が減ったら、有給休暇を4日増やしたそうです。働く意欲を持ってもらうために、一人あたり年間20万円を補助して、国内、国外の旅行に送り出しているという記事を読みました。六花亭では全社員が有給休暇を完全に取得するようになって20年とか。

「人と水と空気がいいから美味しいお菓子が出来る」と語る小田社長。そんな職場で働ける人たちは幸せですね。(み)



中本さん(中央)と従妹の佐々木さん(左)。右は筆者

アイヌ文化を次世代に伝えようと活動している中本ムツ子さん(80)を千歳市に訪ねました。中本さんは2004年、アイヌ文化の伝承に尽くした賞状にたいし吉川英治文化賞を贈られています。



### アイヌ文化を伝える中本ムツ子さん

千歳・蘭越

## アイヌ語教室に子

の姿も

世界人類宣言が採択されて60周年、昨年6月に衆参両院で「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が採択されました。中本さんは「それはあたりまえの事でしょう」と言い、形

「こんなに楽しい文化があるのに、どうしてアイヌはみんな気難しいのだろう」と不思議に思った中本さんでした。何度も話を聞こうと、千歳はともあえたコタンだったこと、シサム(和人)の密着集団がコタンを襲い、全滅させようとしたため、不便な山の中に逃れたことを知ります。「アイヌは劣った民族」と

だけでなくアイヌの自然観や文化を大切にして欲しいと願います。同時に「アイヌのことを理解しようとする人たちが増えてきたのは嬉しいですね」とも。

「アイヌは劣った民族」と罵めていたけれど、平和を愛し、争いを避ける素晴らしい文化を持った民族であることに気づきました。アイヌ文化に目覚めた中本さんは、アイヌ文化や言葉学び始めました。以来30年、アイヌの口承叙事詩

「アイヌ文化復興研究財団の助成を受けて、親と子のアイヌ語教室を開いて6年になります。現在、従妹の佐々木ヒサエさん家暮らしの親子が月に2回、蘭越生活館に集まってアイヌ語を学んでいます。今年から稚内の小学校長を退職し、帰郷した平井史郎さん(64)が、別のアイヌ語教室で学びながら、この教室で中本さんと共にアイヌ語を教えています。平井さんは千歳に入籍移民した3代目、和人がアイヌの土葬を奪ったことを申し訳ないと思ひ、アイヌ語教室に飛び込みました。

ユカラを広めたり、知恵恵の「アイヌ神謡集」をCDに収録したり、アイヌ語教室を開いたり、たゆまず活動を続けています。アイヌ文化復興研究財団の助成を受けて、親と子のアイヌ語教室を開いて6年になります。現在、従妹の佐々木ヒサエさん家暮らしの親子が月に2回、蘭越生活館に集まってアイヌ語を学んでいます。

樋口みな子

## 20周年を祝う会



銀河通信20周年を祝う会が1月31日に北海道厚生年金会館で開かれます。お忙しい中、出席の葉書をたくさん頂きました。ありがとうございます。遠方のため、または用事があって欠席の方からもたくさんの温かいメッセージが届き感激しています。旭川の渋谷正己さんから十勝岳にホルスタインを組み合わせた素敵な年賀状を頂きました。登山の大先輩でもあります。渋谷さんが当日出席者に、ゴム版画でペンダントを作って下さっています。お会いできるのを楽しみにしております。日本酒、ワイン、焼酎等の差し入れ、持ち込み歓迎!

左 渋谷正己さん(旭川市)の版画の年賀状

### 購読料をありがとうございます 08.12.1~09.1.7(敬称略)

- 泉加澄(札幌市) 宮下弘(札幌市) 伊藤泰弘(京都市) 坂井恒俊(旭川市) (カンパも含めて)
  - 新妻 徹(札幌市) 5,000円 小栗 宏(枝幸町) 3,000円 大久保フヨ(北広島市) 2,000円 菅沼宏之(札幌市) 2,000円
  - 平田健三(札幌市) 5,000円 高橋宜也(札幌市) 5,000円 田中清子(岩見沢市) 5,000円
  - 土岐政美(札幌市) 2,000円 中山治光(札幌市) 3,000円(3年分) 足田英子(稚内市) 切手
- 合計36,000円は印刷、送料に使わせていただきます。ありがとうございます。